

献 辞

田中弘先生は、2010年3月末日をもって近畿大学経営学部を定年退職されました。非常勤講師の期間を含めると近畿大学での教員生活は40年に及ぶこととなります。この間の近畿大学における教育研究活動のご功績を讃えて、先生とご親交のあった方々や門下生ならびに経営学部教員が集い退任記念論文集をここに謹呈するものであります。

田中弘先生は、1967年3月に近畿大学商経学部をご卒業後、同年4月より近畿大学大学院商学研究科修士課程へ進学されました。大学院では、大塚俊郎先生に師事されました。大塚俊郎先生は、8年を超えるアメリカ滞在のご経験を踏まえ、日本の大学でいち早くコンピュータ教育の重要性を説かれ、経営機械化論や機械簿記論を担当されていました。大塚先生からご薫陶を得られた田中先生は、日本における大型コンピュータ普及草創期に、この分野の将来の発展を見通し、「企業経営における EDP システムの機能と展開」というテーマで修士論文を完成されました。また、先輩のご指導によりプログラミング等のコンピュータの基礎を習得されましたが、当時は参考となる本が少なく苦勞されたことを回想されておられます。

田中弘先生は、大学院時代にすでに IBM 社においてプログラマーとして実務経験を積まれており、日給500円が相場の時代に時給400円の収入が保証されていたそうです。先生は、1969年3月に大学院を修了されますが、修士論文やプログラマーとしての経験が評価され、大阪商工会議所に経営指導員として就職されました。先生は、大阪商工会議所で7年勤務の後、縁あって近畿大学商経学部にて専任講師として奉職されました。その後、1981年に助教授へ、そして1987年に商経学部教授へと昇任されておられます。2003年4月には商経学部の改組により経営学部教授とされました。この間の1997年10月から2003年9月まで経営学科長を務めておられます。

田中弘先生の教育および学部運営面でのご功績は何といたってもコンピュータ教育の拡充発展にご尽力されたことにあります。コンピュータの実習が始まった1970年代後半には商経学部電算室に FACOM-MATE, 本部の IBM-370 を利用するための RJE 用カードリーダー, プリンタ, パンチマシンが設置され, 当時新しく科目設置された電子計算機概論の実習が行われていました。履修生も30名程度であったため, なんとかやりくりできたようです。ただ, 新しい科目の性格上, 「情報処理は単なる技術の問題で学問ではない。」と話をする先生もおられたようです。

1970年代後半からパソコンが普及し始めると, 学部におけるコンピュータ教育は, パソコン上のアプリケーションを活用したものへとシフトし, パソコンを利用したリテラシー教育の重要性が高まってきました。田中先生は, そのような社会的要請を汲み取り, 商経学部のパソコン教育を発展させるために, 当時の学部長堀田和宏先生のご支援の下, 本部との粘り強い交渉の末, 1985年4月に日本の文系学部専用としては初めての経営情報処理ステーション (MIPS) を開設されました。MIPS マルチルームには, IBM-5550 が62台 (1セット100万円), ビデオプロジェクター (2,800万円), 特注のパソコンデスクが設置され, 開設後の数年間はテレビ, 雑誌, 新聞等の取材が頻繁にあり, 商経学部の情報教育が広く社会へ PR されたそうです。

田中弘先生は, MIPS 室長として永らくその管理運営に携わり, ハード面での拡充とともに, 受講生の増加に対応するためにコンピュータ特修課程を設け, 情報教育の基礎から応用まで多様な科目を設置し, 人工知能論などこの分野の先端領域の科目も積極的に導入されました。同時に, それらの科目を担当される多くの有能な教員を採用されました。そのような MIPS の教育が, 現在の KUDOS へと繋がっていることは指摘するまでもありません。田中先生は, 近畿大学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」を絶えず意識しながら, それを体現したフレーズである「世の中にないものを生み出す」という挑戦と創造を実践してきた時代の変革者であったと讃辞を送るものであります。

もちろん、新しいことに挑戦するときには、多くの障壁が立ちはだかり、それに躊躇することがありますが、田中先生は「肥後モッコス」の精神で予算獲得や教員手配など幾多の問題を解決されました。情報処理は学問たり得ないと批判した先生も、MIPSの成功を見るにつけ「田中先生は先見の明があった。」と評価されたそうです。そのように情報教育に情熱を傾けられた田中弘先生の研究室からは多くの逸材が輩出しています。

田中弘先生は、研究面では、業績リストにありますように『データ・プロセシング』、『経営情報処理序説』、『EDPシステム設計論』等の他、共著も含めると13冊のご著書を公表し、論文等では、EDPシステムの監査やその信頼性を巡る問題、その時々コンピュータ関連技術や会社経営への情報技術の応用等についてご見解を提示されておられます。また、学会活動では、日本経営診断学会の理事、実践経営学会の常任理事・関西支部長を務められ、学会の発展にも大いに寄与されておられます。1999年9月に実践経営学会第42回大会が近畿大学で開催されたときには、準備委員長として大会を成功させるとともに、情報系の学会としては初めてインターネット配信を行ったことを自負されておられます。また、1993年秋に中国人民大学で日本のオフィス・オートメーション学会と中国経営管理学会の共催による国際学会において市毛明先生との共同研究「ダウンサイジングに関する一考察」を発表され国際的にも活躍されておられます。

泰然たる風格の先生にお会いする機会が少なくなることは寂しい限りですが、商経学部および経営学部の発展に多大なるご貢献のあった田中弘先生に衷心よりお礼を申し上げますとともに、これからも健康に留意され、なお一層のご活躍をされますよう祈念いたしております。

平成22年1月11日

近畿大学経営学部長
(兼務) 商経学部長
浦 崎 直 浩